

## 新型コロナウイルス感染症対策による臨時休校中の生徒の皆さんへ

2020年3月4日

校長 森野章二

神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。(新約聖書 ローマの信徒への手紙 8章 28節)

私たち教員も今まで経験したことのない事態となりました。生徒の皆さんは元気で過ごしていますか？

楽しみにしていた中学の宿泊行事や校外学習、英国語学研修など、様々な行事が中止せざるを得ない状況となり、また、一年間にわたって努力し、準備してきた Global Studies 研究発表会や中三の卒業研究発表会も実施を断念することを余儀なくされました。Global Week、部活動の演奏会や合宿等も中止となり、気落ちしている人も多いことと思います。

この世に生きている限り、思いがけない出来事や苦難、悲しみ、災いなどが降りかかってくることは避けられません。そんな時、私たちはつつい苦しいことばかりに目をやっしまい、その状況がいつまでも続くかのように思っしまいます。しかし、それは間違いです。苦難には必ず終わりが来ます。

そして、聖書は更に大きな希望を与えてくれています。「万事が益となるように共に働く」のだと。私たちの経験する苦難や悲しみも、全ては私たちの益となるように神様が取りはからってくださる、というのです。

タイのチェンマイという所へ、サッカーを通じてキリスト教伝道に出かけている青年宣教師がいます。ある時、地域の子どもたちを集めて教会で集会を開催しようと考えました。ポスターや案内状を作成し、色々な学校の周辺でチラシを配り、お菓子や飲み物を用意し、当日たくさんの子どもたちが集えるように、良い天候が与えられるように、毎日祈って準備をしました。いよいよ当日の朝を迎え、窓を開けて外を見ると、バケツをひっくり返したような大雨。これでは子どもたちも集まるはずがない、せっかく祈って準備してきたのに。神様は祈りを聞いてくださらなかったな…。彼はがっかりしながらも、会場の飾り付けをして、たとえ数人でも来てくれたら良いのに、と願いながら待ちました。開始時刻が近づくと、一人、二人、続々と子どもたちが集まってきて、教会は満員になりました。集会は盛り上がり、感謝のうちに終了しました。子どもたちが帰る時、「よくこんな雨の中に来てくれたね。」と声をかけたところ、思いがけない返事が返ってきました。こんな大雨だからこそ、集会に来ることが出来たんだ、と。もし晴れていたら、スポーツクラブや習いごとなど、色々なことが重なっていたから、集会には来られなかった、と。

私たちに降りかかってくる様々な出来事が、どのような形で私たちの益となるように働くのか、私たちには分かりません。今回のこともそうです。すぐには答えが与えられないかもしれません。

しかし、「万事が益となるように共に働く」と聖書は約束してくれています。約束を信じて、今出来ることに全力を尽くしてください。

休校中は、人混みを避け、閉鎖された空間に大勢の人が集まるような場所には出来る限り足を向けないようにして、感染防止に努めてください。宿題や課題も出されていますが、日頃読めないような本にチャレンジしたり、家族の方とゆっくり話をしたり(英語ではこれを quality time と呼ぶそうです)、有意義に時間を活用して欲しいと思います。